

21.4 2019

ルカによる福音書 24 章 1～12 節

“ イエス様は本当に復活されたのか？ ”

皆さんイースターおめでとうございます。今年も、この場所又はオンラインで出席されている皆さんと一緒にイエス様の復活をお祝いすることができることは私にとって光栄なことであって喜びです。

キリストの蘇りは福音の中心(核心)であり、私達はこれによって立ち、人生を建て上げています。創造、罪と死の介入、やがて来る神様による全ての回復と信じる者が神様とともに天国で暮らすことと言ったキリスト者が見る世界の歴史観において、十字架と復活は全ての時で中心的な出来事です。

キリスト者の世界観においては、このことなしに正確な真実を理解することはできません。

ですから使徒パウロは、”もしキリストが復活されなかったなら、私達の教えは無意味なものになり、同じようにあなた方の信仰も意味がなくなるのです。”(第1コリント 15章 14節)と言っているのです。また続けて、”もしキリストが復活されなかったなら、あなた方の信仰は意味がないものになり、あなた方の罪は赦されないことになって、キリストを信じて死んだ者達も同様に失われてしまうのです。”(第1コリント 15章 17～18節)と言っています。

しかし、復活は本当に起きたのでしょうか？私達がイースターの度に読む聖書の物語は本当のことなのでしょうか？もしそれらがただの希望的な考えであつたらどうしますか？また歴史的な出来事に基づいたものではなく、愛や平和、共同体の素晴らしさと言った永遠の真実を表現したいが為に人々によって作られた文献だったら？

皆さんが聖書にあるイースターの物語の理解の仕方は皆さんの人生全てにおいて大変大きな

インパクトを持つことになると思います。今日では、キリストの復活について肯定する側、否定する側どちらの議論も多く聞くことができます。実際にこの議論は、イエス様の身体が無くなったことを告げ知らせた最初の人から始まっています。ですから復活について注意深く考えてきた人々から私達が学ぶ点は多いのです。彼らは現代の私達の耳には不思議な謎のように聞こえる聖書の言葉について紐解く鍵として私達を助けてくれます。

この題材について多くのことを書いたり話している一人に、ジョン・レノックスという博士がいます。博士は元々北アイルランドの出身で、現在はオックスフォード大学の数学教授として、更にケンブリッジを含む英国の大学で、また同様にドイツや北アメリカの大学で学び、教え、研究をしてきた方です。数学に関する研究の傍ら、科学と哲学そして宗教とのつながりについて多くを著述しスピーチや議論をしています。

オンライン上で博士の多くの講義や議論等について見ることはできますが、その中にはイエス様の”復活“の疑問について直接扱っているものもあり、その一つはハーバード大学における講義になっています。その講義は ”奇跡;それは超自然的な不合理を信じることか?“ というものです。

他のものでは、” 科学者は復活を信じることができるか?“ というヴェリタスフォーラムの講義があります。これらの中で博士は、キリストの復活を人々が語る時に持ち上げる様々な疑問についてキリスト者としての回答を提供していますので、これを理解しやすい形でお話していきたいと思います。 それによってイースターのメッセージがより明確かつ自由に理解できる手助けになれば幸いです。

キリストの復活を信じるのが難しいのは、その中心が奇跡の物語であるということです。昔の人々は教養がないので何も知らないから奇跡が起きることを自発的に信じただけで、現在の私達はもっと教養があるので、そのような(奇跡)ことは可能でないと知っているという論争があります。しかし聖書の物語を注意深く見てみると、その多くの場合、奇跡は当時の人々にとっても同様に信じるのが難しいことでした。今日の聖書箇所(11 節)では、初めて空の墓を見た婦人達が、そのことをイエス様の弟子達のところに報告しに行ったものの、” しかし弟子達はその婦人達のことを信じなかった。婦人達の言葉は弟子達には訳がわからなかった。“ とあります。

クリスマス話で、ヨセフが自分の婚約者のマリアが妊娠していることを知り、自分が父親ではないと分かった時、ヨセフは赤ん坊がどこから来るのか分からなかった訳ではないので、結婚する予定を解消するつもりでした。彼が考えを改めたのは神様からの明確なメッセージがあったからです。

”新しい無神論者”の内の一人である、リチャード・ドーキンズは最近、1800 年代以降に十分な教育を受けた者にとって、処女降誕のような奇蹟を信ずることは可能ではなくなったという主張を展開しました。しかし 1900 年から 2000 年のノーベル賞受賞者を見るならば 60%以上の受賞者が神を信じていることが分かります。これら全ての受賞者である学者達は教育の無い人なんでしょうか？キリスト教者だと言いながらイエス・キリストの奇跡についての教えを否定する人だったんでしょうか。 今日、多くの知的な人々が神様を信じました奇跡も信じています。加えて才能溢れる人々が

そうでなという事もあります。ですから信じるか否かの違いを決めるのが、単に頭が良いか否かの違いであるというのは、合理的な議論というより人を侮辱することです。

もう一つの関係ある、そしてよく聞かれる考えは、死んだ人が再び命を得るという事がそもそも単に可能でないというものです。所謂奇跡と呼ばれるものは自然の法を破る行為であるから、それらは起きることができないもので、信ずるべき事ではないとするものです。

しかし聖書の記者達は、自然界に法則が無い、または、それ(自然界の法則)が重要でないと一度も主張していません。自然界の法則は重要なのです。ですからルカは、例えば 12 節では、ペテロがイエス様の墓に行った時のことを、“身をかがめて中を見ると亜麻布だけがあったので、この出来事に驚きながら立ち去った。”と書いています。

もし死んだ人が死んだままている(埋葬された身体がそのまま残る)のが普通と思わなければ、このような状態を見ても驚かないでしょう。

神様が聖書の書き手を通して表した、また表していることは、自然の法則は神様の法則あり、非常に重要だということです。それらは神様の法則であるので、神様が望まれるなら神様は例外を選ぶことができるのです。自然の創造者であるお方として神様は自由であり、御自分が作られた法則に囚われることがないのです。英国の学者 C・S ルイスがこれらのことについて例を挙げて説明しています。

私がホテルに滞在していると想像してみてください。ある日、10 万円を部屋内の引き出しに入れ翌日また 10 万円を入れました。そして外出し部屋に帰って見ると 5 万円しか引出しにありませんでした。この事で、私は数学の法則が破られたと判断するでしょうか？それともこの国の法が破られたと判断するのでしょうか？

勿論、数学の法則が破られたのではありません。同様に奇跡も自然の法則を破ってはいません。

奇跡はこれらの法則の例外です。キリスト者は、復活のような奇跡を注意深く語る時でさえ特に自然の法則を信じていなければなりません。ですが私達は、これらの法則が人生の全てを説明出来るとのだけと言う必要もないのです。

引出しは開けられるし閉められるものであり、強盗のような人がその引出しのところに来て、その中にあるものや無いものの状態を変えることができるということです。

同様に、自然界は閉鎖系(クローズドシステム、物質の移動を許さない)ではなくて開放系(オープンシステム、物質の移動を許す、例えばエネルギー不変の法則)です。勿論、私達は人間として自然界を変える為に出来ることは大変制限されている存在

です。しかし私達がそうであるからといって神様もそうに違いないと思うことは間違いです。神様が存在しないことを証明する科学はないし、自然界の法則を作られた神様が、ある時期に(神様がそのようにすることを選ばれる場合)自然界の法則に介入し停止させることができないということを証明する科学もないのです。

科学の役割は、自然界がどのようにして、通常、規定通り、また予想通りに働くかを、見ることができる、理解することができる、更に確認することができるように説明することです。

それは、合理的な神様が自然界が合理的な方法で働くように作られたからであって、神様は、神様が作られた自然界がどのように働くか気付くことを通してもっと良く私達が神様を知る(見つける)ために使うことができる理性を人間にお与えになりました。しかし神様は、望まれる時に自由に例外を作ることができます。

そのような事が起こるはずがないと主張することは、例えば、“(1)ヘンリー・フォードは存在した。また(2)車は内燃機関のエンジンを使って動く。このどちらが正しいかを皆さんは選ばなければなりません。”と言うようなものです。勿論両方とも正しいのです。自動車の創始者は存在していましたし、その彼はエンジンが決まったやり方で動くように作りました。どのように物事が働くか言い表すこととその創始者を信じることは、お互いに排除し合う事ではありません。これら2つのことは全く衝突することなく適合するのです。ですから、御使いの言葉(6節)“イエスはここにはおられません。彼は蘇ったのです。”を信じることは、皆さんが脳のスイッチを切ったり、また、皆さんが不可能だと知っている何かを信じるように自分を強いることでもありません。これは皆さんも私も信仰を通して知ることができることです。

しかし、勿論、誰かが“証明できるか?”と尋ねることはあるでしょう。3節では、“婦人達が墓地に入った時、主イエスの身体を見つけることができなかった。”とあります。このことだけをもってイエス様が再び命を得たことの証明になりますか? 勿論違いますね。

否定的なこと(そこに身体がない)は肯定的なこと(イエス様が生きかえる)を証明しませんよね。イスラム教徒の中のある人々が信じていることですが、多分イエス様は本当に死んでなくて、なんとかして脱出したとかでしょうか。そうですね、同じ章の36節はどうでしょう。

“弟子達がまだこれらのことを話している間に、イエスご自身が彼らの真ん中に立たれ、「平安があなた方にあるように」と言われた。”

イエス様を彼ら自身の目で見たということは復活を証明することになりますか? そうなのでしょうか? でも、彼らが単に想像し心に描いただけのことじゃないとどうしたら分かりますか?

ルカが真実を言っているとどうしたら分かりますか？ 私が言う意味がお分かりになりますか？

疑う為の理由は、それを探し続けている限りどこでも、どんなに小さくても常にあるのです。勿論、復活が起こったという絶対的で数学的(極めて厳密な)な証明がなければならぬといった 100%レベルの確信も決して得ることはできません。

しかし、レノックス博士は重要な指摘しています。もし何かに 100%の数学的証明を探し求めているなら、数学的なものの中でのみ探したことになる。科学者でさえ、他の自然科学の分野では、いつでもある程度の不確実さをもって研究しています。例えば、科学の主要疑問の一つに、どのようにして自然界が存在するに至ったかというものがあります。しかし、誰も、もう一度この世界を創造して自分が考えた通りになるかみて見ることが唯一の良い調査だとは主張しないでしょ。科学者はいつも人間の知識の範囲内で研究します。しかしこれは、証拠が重要ではないということを意味しません。証拠は今日の科学だけではなく、復活について語った聖書の著者にとっても大変重要なことです。彼らは証拠の重要性がどこにあるか見ているのです。また、彼らは少しシャーロックホームズにならなければならないことも知っています。警察、弁護士、裁判官、陪審員はいつでもそのようにしています。また、銀行の貸付係は、借り手がローンを返すことについて 100%の客観的な確実性を期待しておらず、通常は、返せるという証拠を期待します。結局、彼らは彼らが見る事実に基づいて判断を下さなければならないのです。

私の家族は私を愛していますか？ 私は自信を持ってその質問の答えを知っていると言うことができます。千恵子と私は結婚して 28 年間ほどで、彼女も私達の二人の娘達も毎日色々な方法で私に愛を示してくれています。それは例え私が彼女らにそうすることが難しいと思っている時にもです。私はそのことについて、完全な数学的な証明を持ち合わせていません。そもそも、必要だとも思っていませんし、そのような知識を持つことを期待していません。それは何かを知る時のただ一つの方法ではなく、人生もそのように働かないのからです。

使徒ヨハネはそのことを理解していたので、イエス様の復活についての彼自身の真相(事実)を築き、その福音書の一番最後で私達にこう告げています。

“ イエスは弟子達の前で多くの奇跡的なしるしを行ったが、それらはこの書物に書き記されてい

ない。しかし書かれている事柄はあなた方がイエスが神の御子キリストであることを信じるためである。もし信じるなら、あなた方は命を得るのです。なぜならば彼に属しているからです。”

肝心要の重要な問題は、何が疑いの余地がなく証明されるのかではなく、イエス様の復活の話について何が納得できる(説得力のある)ものなのかということです。その一つとして、ルカは、イエス様の身体が消えたことを最初に見つけたのは “婦人達” であると言っています。(1~3節)そしてこの婦人達がこの知らせを他の人々に伝えていきます。(9~10節)

このことが起こった時の当時の文化では、私達が今性差別と呼ぶものは至る所全部で存在し、女性の地位は極端に低かったのです。例えば、裁判における女性の証言は認められていませんでした。それは信頼のおける証言とは考えられていなかったからです。(同様に、イエス様誕生のニュースを最初に聞いた羊飼いの証言も似たようなものでした。)

ですから、もし、何か真実ではないことを人々に確信させようと思えば作り話をするとしたら、その話に女性を入れることは、その話が信じられるように聞こえるためにしてはいけないう事でした。わたしが育ったアメリカの文化には狡い中古車セールズマンや弁護士の冗談がいろいろあります。作り話を人々に伝えてもらうようにだれかに頼んだとしたら、決してそのような人に頼むはずはないです。

また、復活されたイエス様と会うことを通して弟子達の人生に訪れた変化を見てみましょう。

イエス様が逮捕された時に逃げ去り、国の宗教指導者を恐れて屋内に閉じこもっていた者達は、自分の意志で通りに出て行き公衆の前でイエス様が再び命を得られた(復活された)ことを告げ知らせるほど劇的に変貌しました。(使徒の働き 1章4節、例) しかも自分たちの大胆な行動が大きな困難を引き起こすことになることになっていたのにそうしたのです。結局、迫害が始まり、イエス様に従う者達の中には命の危険性あることから(自分の命を救うために)逃げたり、信仰の故に殺されたりした者もおりました。それでも彼らは、そうする価値があると信じていました。

彼らがすすんで命を危険にさらし、自分達の未来をイエス様が生きていると言うことに賭けたことは、(イエス様の)復活が、ある象徴的で想像上の、一般的な道徳感覚であったと考えるのは非常に難しいことです。そのような劇的な変化は聖書の著者が言っているように、弟子達が本当に文字通り復活したキリストに会ったが故に起きたことでしょう。このことは、復活を信じることについて私達の決心を促すような注目に値する証拠量だと思います。

レノックス博士や、私が思うに聖書の著者達も同様に、人々には懐疑的であるべきとアドバイスしています。私達は証拠を探すべきですし、奇跡の話論争や何であれが得意な誰かから聞いただけで信じるべきではありません。信仰とは、誰かが誤解し

て言うように、証拠がないにもかかわらず信じるということではありません。ジョン・レノックスの結論は、医者であったルカや他全ての聖書の著者と同様に、証拠があるということです。概して聖書の物語を支持(擁護)する歴史的な証拠は、他のよく知られた歴史上の物語と比べても非常に強固です。信じる為には、どのくらい多くの過去の文書が必要ですか？ 例えば、ペロポネシス戦争は本当に起こったのでしょうか？ そのような証拠の数とその質(品質)を聖書の物語を支持しているものと比べてみると、聖書が信頼に足りるという驚くべき量の証拠を見つけることができるでしょう。イースターの物語においても、キリストが事実として死から蘇ったと私達が信じることを擁護する十分に強固な理由を持った証拠があります。

では、この全てのことから私達は何を受け取るべきでしょう？ 私が思うに、私達には、科学のファンになって、科学を受け容れ、支持し、喜び、一生懸命に研究するといったことをする大きな理由があると思います。それは私達を神様の深い知識と愛に導くことができる素晴らしい道具です。全ての真実は神様の真実で、私達は科学であれどどのような分野のことであれ学ぶことを恐れる必要はありません。私達の父である創造者の驚くべき御業に畏怖の感を持たずに、ブラックホールの最初の写真を最近のニュースで見ることにはできません。しかし、いかにそれが素晴らしくとも、科学は神様の代わりにはなりません。科学は全ての人生の問題や全ての私達の深い必要には決して答えることができませんし、そのようにしようとする時には多くのトラブルを招いてしまいます。私達が、科学を科学主義に変えようとする人、神様を科学に取り換えようとして世俗の価値によって生きる人に従っていく時、その結果は厄介なもの(問題)となります。

また、私達には福音の主張に自信を持つべき強い理由があり、それは私達がよって立つ硬い基礎を与えてくれます。キリストは生きており私達の生活と今日の世界において実際に働いておられる方です。私達はこのイースターの信仰を私達の中で広げ行かなければなりません。閉ざして行ってはならないのです。私達はイースターの信仰を想像力に富んだ以上のものに、新鮮な可能性のあるものにしていかなければなりません。私達には、ナルニア国物語を書いたC・S ルイスや指輪物語のJ・R・R トールキンのような過去の偉大なモデル(お手本)やその他の多くの人々がモデルとして、私達に道を示してくれています。信仰によって歩む人生が人の歩みを鈍化(足を引っ張る)させる、狭いところに閉じ込める、制限する、このような主張を受け入れる理由はないのです。もしそのようなことが起きているなら、それは多分信仰によって歩んでいないからです。ですから、私達自身の特別な方法で復活の光の中で、オープンに、力を受けて、神様を信じる人として生活が満たされながら生きる方法を探していきましょう。そうできるよう私達を助けていただくため神様にお願いしましょう。

可能性に満ちておられ、止まる事のない愛の力を持つイースターの神様、あなたの命の贈り物に対して、あなたが回復し新しくして、私達に再び与えて下さること全ての御業の故に、あなたを褒め称えます。今日の御子イエス様の復活のお祝いをあなたと共に喜ぶことができますように助けて下さい。あなたが、私達のための良い御計画をあなたが想われる全てに渡って、私達が真実とイエス様の復活の力の内に生きることを学べるよう助けて下さい。イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

参考

Lennox, J. (2019). John Lennox. Retrieved April 14, 2019 from <http://www.johnlennox.org>

Lennox, J. (October 11, 2017). "Can a Scientist Believe in the Resurrection?" The Veritas Forum. High Point Church. Retrieved April 14, 2019 from <https://www.youtube.com/watch?v=0jAlsaj16KQ>

Lennox, J. (March 10, 2012). "Miracles: Is Belief in the Supernatural Irrational?" The Veritas Forum. Harvard University. Retrieved April 14, 2019 from <https://www.youtube.com/watch?v=2Kz4OgXsN1w&t=2s>